

防草ブロックが好調

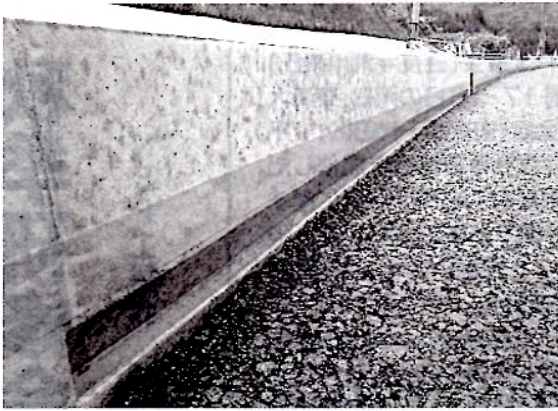
後藤商店 今期2000m超見込む

後藤商店(本社、広島県庄原市東城町川東一三五一―一、社長 後藤茂行氏)が防草ブロックの施工実績を伸ばしている。

題となり、同社では材工で積みブロックの注文を受けるなどして対応を続けている。

同社は建築・土木建築資材・生コン・コンクリート製品事業などを手掛ける建設関連企業。コンクリート製品事業では、これまで積みブロックの製造を行ってきたが、積みブロックが大型の環境ブロックに切り替わるにつれて需要が減少、年間の積みブロック生産量は8年前の30万個から昨年は14万個まで落ち込んだ。需要の減少と共に積み手不足の問題も大きな課題

として、同社では積みブロックに代る主力商品として大型ブロックの製造も検討したが、後発では受注も限られるとして断念。こうした中で出会ったのが、全国防草ブロック工業会(会長 矢野明正氏)が普及に取り組み防草ブロックだった。同社は2014年に全国防草ブロック工業会に入会すると、翌年5月から歩車道境界ブロックの製造を始める一方、秋には広島県内の国交省・県・市町村に対して防草



施工中の防草ブロック

ブロックのPR活動も開始した。また地元庄原市内に広島県北部建設事務所や三次市、庄原市の職員、建設業者、建設コンサルタントなど約60名を招いて防草ブロックの技術説明会を開催するなど、積極的なPR活動を展開した。

当初は「雑草が生えない訳がない」、「除草の仕事が減る」など発注者や建設業者の反応はさえなかったが、「道路の維持管理コストが安価に抑えられることも長

寿命化のひとつ」として、植物が下向きには成長しない性質を逆手に取り雑草が自ら成長を止める防草ブロックのメカニズムの説明を続けた結果、地場最大の建設業者が国道工事に防草ブロックを使用するなど徐々に評価が定まってきた。この結果、2015年には庄原市内を中心に5件300mにとどまった施工実績は、今年度は上半期が6件630m、現時点で更に8件1500mの施工予定があり、累計では2000mを超える見込みで、同社では防草ブロックの普及拡大に大きな手応えを感じている。9月には広島県長寿命化技術活用制度で最も評価の高い「区分3(活用促進を図る技術)」として登録され、11月には広島県主催のインフラ長寿命化技術フェア広島2016で防草ブロックのプレゼンを行った。

後藤茂行社長は「防草ブロックの導入当時は積みブロックの需要が落ち込み、積みブロックに代る商品を模索していた時期で、丁度良いタイミングだった。道路用製品の製造は初めての取り組みだったが、従業員を6人から14人まで増員し製造設備も整えた。当初はPR活動に対する反応が鈍く「何故こんなに良い商品が売れないのか」と思ったが、徐々に評価は高まった。発明大賞や愛知環境賞をはじめとする4つの賞を受賞し、多くの有識者から環境製品として評価を受けている事も大きい。防草ブロックは愛知県をはじめ、関東・東北・沖縄など各地で採用実績が伸びている。広島でも更に普及を進めたい。庄原市では防草ブロックの性能を確認するため、同じ現場に普通タイプと防草ブロックを並べて施工し経過観察を行っている。また広島国道呉事務所も試験施工で採用になった。維持メンテナンスコスト削減に寄与するといえるのは自治体にとって大きなインパクトになる。大手舗装業者の反応も良く、国道の中央分離帯での採用にも期待している。最近山口県や岡山県からも引き合いが来ている。今後、脱型からパレット積み込みの工程をロボット化する事も検討したい」と今後の抱負を語っている。同社では境界ブロックの他にも、落蓋式側溝、防草タイル(コンクリート舗装用目地板)、防草グレーチングを導入し、防草シリーズとしての充実を図りPR活動を強化する方針だ。

石灰石出鉱量 5億トン達成

宇部伊佐鉱山

宇部興産(宇部本社、山口県宇部市大字小串、社長 山本謙氏)は、11月16日に宇部伊佐鉱山(山口県美祿市)の石灰岩累積出鉱量5億トン達成を記念して29日、記念式典を開催した。



宇部伊佐鉱山は1948年9月から採掘を開始。大型破砕機の導入や大容量サイロの増設、傾斜面採掘からベンチカット方式への転換、伊佐と宇部を結ぶ専用道路の建設着手等、生産能力とインフラの充実を進めてきた。1973年には隣接する丸山鉱区、さらに1982年には雨乞鉱区での採掘を開始、現在では3鉱区で年間約800万トンの石灰石を採掘している。また2018年度末迄の出鉱開始を目指し、新たに金山台鉱区の開発も進めている。広大な石灰石鉱山と宇部興産専用道路を走るダブルストレーラー等が見学できるバスツアーも人気を博している。

又吉安弘氏が 理事長に就任

沖縄県製品協組

沖縄県製品協組

沖縄県製品協組 クリート二次製品協同組合は11月22日、組合事務所で開催した。通常総会を開催した。任期満了に伴う役員改選では大城保一理事長が退任し、新理事長に又吉安弘氏・写真(牧港産業)が就いた。副理事長には新垣力太氏(再任、新垣産業)と宮城勝氏(新任、沖坤)が選任された。